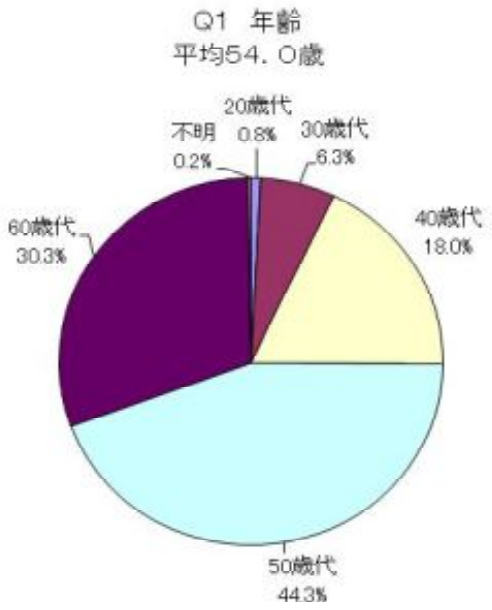
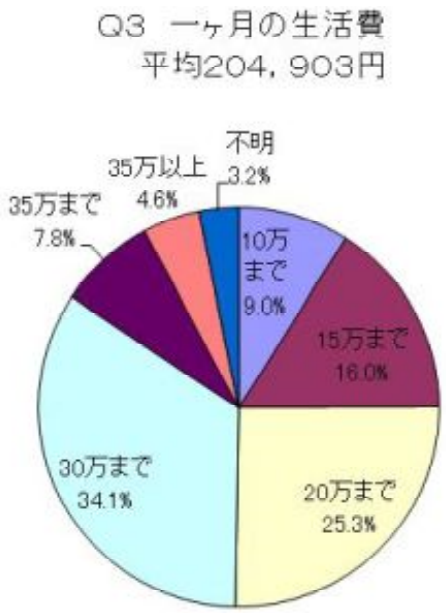
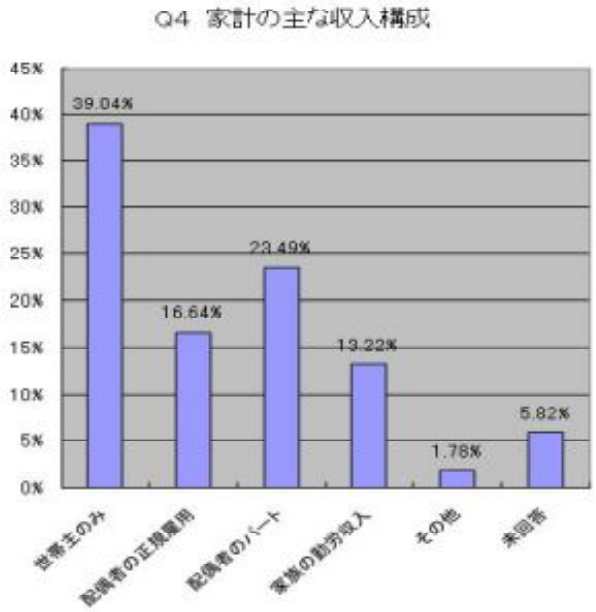
改善進まない生活・労働実態

全自交労連２０１１春闘、生活・労働実態調査

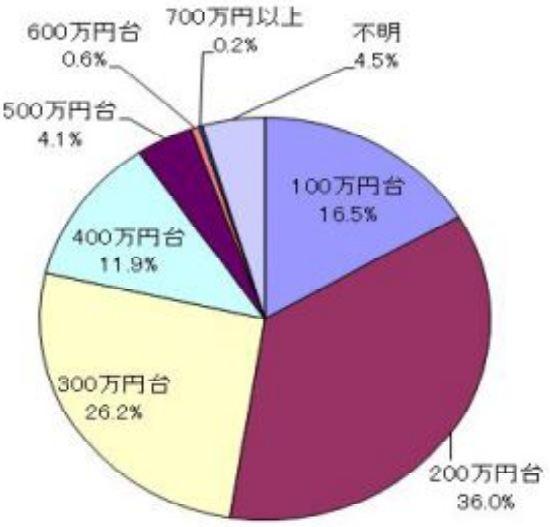
201 １年春闘、生活・労働実態調査
グラフ分析：全自交労連は昨年１１月に「２０１１春闘、生活・労働実態調査を実施しました。それによると組合員の年収の平均は２８３万円で昨年より若干低下しているものの、年収低下に歯止めがかかったようで、これも増車と新規参入ストップ、運賃の自動認可枠への収斂など、タクシー特措法の効果と見ることもできます。 しかし、組合員の特措法による効果の実感は薄く、また営業収入の低下が続いていると応える人も７割程度います。 経済情勢の悪化もあって、いまだ私たちの賃金の回復・改善に至っていないことが調査結果に現れていると言えます。２０１１春闘は特措法を背景に実感できる労働条件改善へ取り組むことが求められています



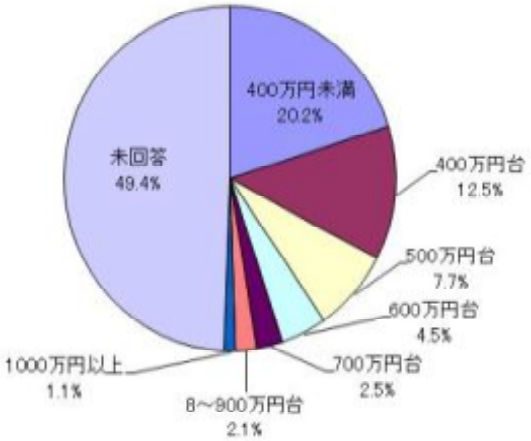




Q5　年間所得
平均2,831,115円

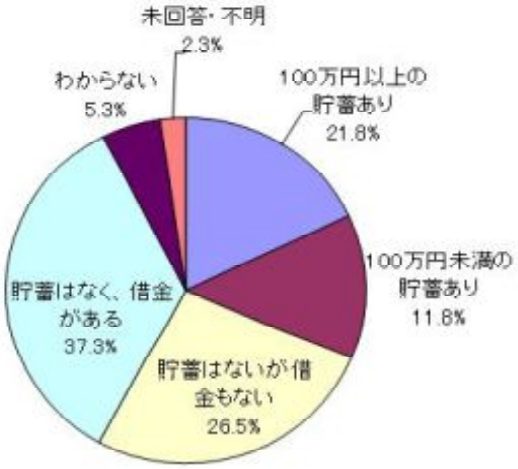


Q6　世帯当たりの年間所得

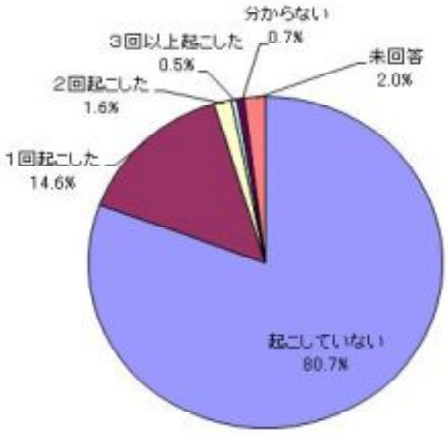


Q７　世帯の家計状況

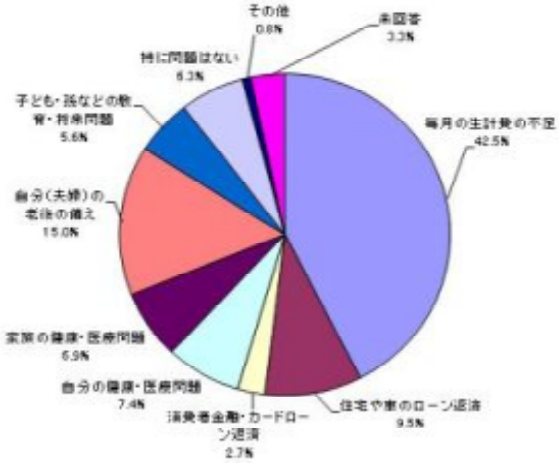
Q8　家計の貯蓄状況



Q9 この1年間、第一当事者としての事故を起こしたか

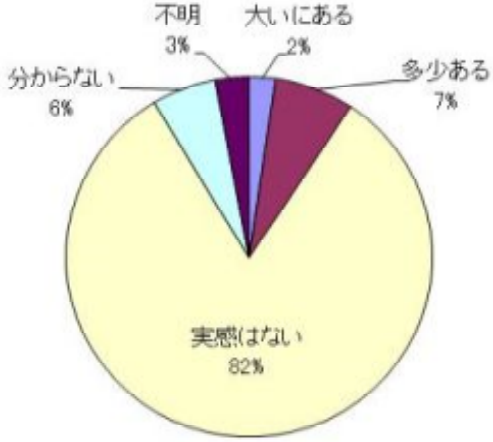


Q10 今、生活上で一番困っている問題



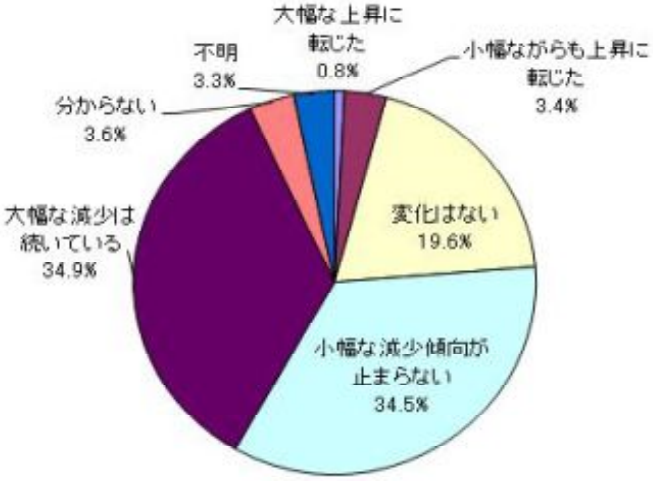
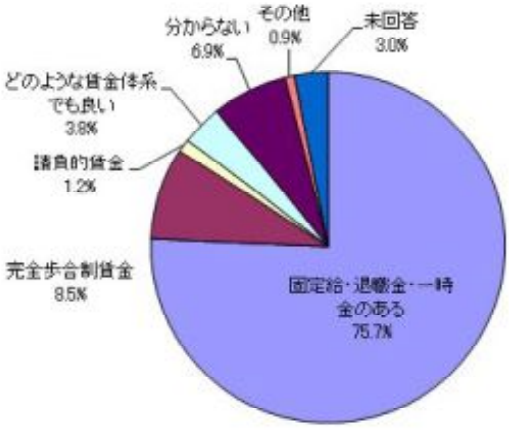
Q11 タクシー特措法施行後の状況

①街を走るタクシー台数が減っている実感



Q11 タクシー特措法施行後の状況

②直近の営業収入状況



Q12 どのような賃金体系を望むか